

平成30年度第2回アレルギー疾患医療連絡協議会 議事要旨

日時：平成31年3月14日（木）13：00～14：30

場所：行政棟 特1会議室

※議事要旨の文章は、実際の発言の趣旨を損なわない程度にまとめて、読みやすく整理したものです。

（司会）

それでは、皆様お揃いですので、平成30年度第2回福岡県アレルギー疾患医療連絡協議会を開催させていただきます。委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

私は本日の司会進行を務めます、がん感染症疾病対策課課長技術補佐の唐木でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、開催にあたりまして、課長の福田より一言ご挨拶申し上げます。

（がん感染症疾病対策課長）

福田でございます。よろしく願いします。本日は、年度末のお忙しい中、「福岡県アレルギー疾患医療連絡協議会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より、本県の保健医療行政に、ご支援、ご指導いただきまして、重ねてお礼を申し上げます。

さて、本日の議題は、「福岡県アレルギー疾患医療拠点病院の選定について」でございます。昨年末、この協議会でご協議いただきました調査票を基に、1月に実態調査を実施いたしました。その結果をとりまとめましたのでご報告いたします。今後、アレルギー疾患の専門的な医療提供体制の整備を行う上で、その中心となる拠点病院の役割は非常に重要と考えております。今回の調査結果を踏まえまして、拠点病院としての機能を担うにふさわしい医療機関の指定につきまして、ご協議いただきたいと思います。

本日のご意見を踏まえまして拠点病院の指定を行い、来年度以降は、拠点病院と連携しながら、人材育成や県民への情報提供といった本県のアレルギー疾患対策の充実、強化に努めてまいりますのでどうぞよろしく願いいたします。限られた時間ではありますが、どうぞ忌憚のないご意見を賜りたいと思います。本日は、宜しく願い申し上げます。

（司会）

本日、伊藤委員、山本委員よりご欠席の連絡をいただいております。なお、大部委員の代理として福岡県栄養士会副会長の田中様、宮崎委員の代理として、北九州市保健福祉局健康医療部健康推進課疾病対策担当係長の山口様にご出席いただいております。

それでは、議題の審議にあたりまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。

【配布資料の確認】

(司会)

それでは、これからの議事進行につきましては、西間会長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

(西間会長)

それでは、議事に入らせていただきます。初めに、「議題1 福岡県アレルギー疾患医療拠点病院の選定について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局説明】

【協議の結果、国立病院機構福岡病院を拠点病院の候補とすることを承認】

(西間会長)

調査結果を踏まえ、指定要件以外にも福岡病院に実施していただきたいことを要綱に付記していただいた方がいいのではないのでしょうか。

(田中副会長)

そうしましたら、あとは、医療従事者を対象とした研修について、今は国立病院機構管内の栄養士さんたちに対して勉強会等を実施されていますが、今後は、さらに広く、福岡県内の病院等の医療従事者に対して研修会を開いていただきたいということが言えるかと思ひます。

(西間会長)

栄養士会としてはどうですか。例えばここにあるような国立病院機構での講習を拡大する形にしたら、その時にどういった形で参加、協力できるのでしょうか。

(田中様)

アナウンスをしていただけたら栄養士会に声掛けを行いますので、参加できると思ひます。今後アレルギーをやっていかなければいけないということは会員も十分理解できていると思ひますので、積極的に声掛けをしていただけるといいと思ひます。

(西間会長)

保育所、学校等の教職員に対する研修自体は、部屋があれば開催できます。しかし、栄養士の研修は、かなり実習的なものです。50~100人集めてやるというのではなく、ある程度少ない人数で実習を含めた研修ということになりますので、かなり時間を取らなければならないと思います。そういうことを含めて栄養士会がどういう形でコミットできるかというのが、今後の課題です。

(田中様)

今後そういうことをやっていかないといけないという感覚で対応していきたいと思いません。

(西間会長)

全国的には栄養士会はアレルギーに対して動いていると思います。

(田中様)

そうですね。今、またちょっと取り組みが遅い状況にありますけれども。

(西間会長)

熊本地震の時には動きがありましたが、またこのところ静かです。あの時は備蓄のこと等いろいろあって、栄養士会はすごく活動していました。

それからアレルギーエデュケーターについて、薬剤師の関わることは、細かい点ではありますが、吸入療法やスキンケアにおける軟膏の使い方、点眼の方法の指導等沢山あります。しかし、全国的にも薬剤師のアレルギーエデュケーターは何人かしかいません。薬剤師を対象とした講習会をやれば、結構勉強しがいのある内容になると思います。

拠点病院が実施する研修は全県で展開するということになります。福岡市は地理的に恵まれています、全県的に北九州、筑後、筑豊とやっていかなければなりません。

看護師も、今資格として認定されているのは小児のエデュケーターですが、吸入療法となると成人、高齢者が重要になります。看護協会での講習会となると、具体的にどのような方法があるのでしょうか。

(石橋委員)

看護協会では、年間の研修計画を組んで動いていますので、私としては、何か特定の研修を行うというのはなかなか難しいかなと思っています。ただ、看護協会も14地区の支部に分かれて活動したりしていますので、拠点病院として指定されたところから講師を派遣していただいて、30分でも1時間でもレクチャーをしていただくなどの活動を、支部レベル

で浸透していく方法はあるかなと、今、思い描いています。その方が逆に言えば、協会の本体で研修するよりも、地域のクリニック・施設の職員が出席しやすいという感じです。このように、支部活動にアレルギーに関する研修を持っていくという方法はできると思います。

(西間会長)

薬剤師、栄養士、看護師、あとは医師です。

(田中副会長)

アレルギーについて「資格を取る」という意識を持てば、勉強するのではないかと思います。

(西間会長)

そうですね。何か資格を取った人にうまくやってもらう方法を考えないといけないと思います。取ったらそれっきりというのではなく。

(田中副会長)

例えば、拠点病院ができたというアナウンスをし、拠点病院が開催する研修会に行かないと資格を継続できないといった仕組みにすると、必ず出席すると思います。

(西間会長)

それはまだ難しい状況にあります。拠点病院がない都道府県もありますので、学会の点数をつけるには難しいと思います。地域によっては全然できないところが出てしまう可能性があります。

(田中副会長)

アレルギーとは違うのですが、がんの分野では、県と医師会が一緒になって各ブロックで研修会を行ったり、県の主催で研修を行ったりしており、それに生涯教育の単位を付けています。「こういう対策が国として始まったので、必ず受けてください」という案内を出すと、おそらく、みんな関心が高く研修を受けると思いますので、県にやっていただければいいと思います。

(西間会長)

そうですね。その時の講師は積極的に拠点病院から出すといいと思います。そして、先ほど言われたように、専門医になっているのに宝の持ち腐れのようにになっている人たちが、そこで活用するのいいと思います。

再来週、国の協議会が新しく組みなおされて開催されます。新たな協議会長の下で動き出

すので、福岡県もそれに沿って取り組んでいくという風になると思います。補助金の話は4月になってから具体的に厚生労働省の方から出てきますので、その時に福岡県がどうするかをまた議論しないといけないと思います。

また、福岡県の拠点病院は、将来的には、西日本の拠点病院になると思います。そのためには、いずれ北九州、筑豊、筑後にも拠点病院を置かないといけないと思います。それでは、議論はここまでとします。以上のことを踏まえ、県としてはどうでしょうか。

(事務局)

今までの議論を踏まえ、福岡病院を拠点病院の候補とし、要綱に書かれている役割がどこまでできるかといったことを病院と詰め、最終的に決定をしていきたいと考えています。その際、また協議会に諮りたいと思いますが、その時は会長にご報告という形でよろしいでしょうか。

(西間会長)

指定の病院は福岡病院ということになりますので、あとは細かいことを確認し、会長に承認を得て公表という段取りでよろしいでしょうか。

公表するとなると、福岡病院に指定の話はいつ頃するのでしょうか。

(事務局)

今週中に速やかに行いたいと思います。

(西間会長)

公表自体は、いつになるのでしょうか。

(事務局)

4月1日指定を考えていますので、その前までに行います。

(西間会長)

官報のようなものに載るのですか。

(事務局)

まずは、マスコミに出しますので、記者クラブから情報が出ます。

(西間会長)

全国集計を取っていますので、厚生労働省の疾病対策課にも伝えておいてください。

(事務局)

承知しました。

また、今後の話になりますが、医療従事者の方に対する研修の内容や対象者について、私どもで案を作って提示したいと思いますので、その時はまた協議会でご協議いただきたいと思います。

(西間会長)

最初にしっかりやり始めたほうがいいと思います。その方が後でスムーズにいきます。

(田中副会長)

福岡病院では大人と子どもの両方を診られているとは思いますが、今後また別に、小児科の病院に拠点病院の指定のお尋ねをするということも可能なのでしょうか。

(事務局)

まずは1か所と考えていますが、今後、広げる必要がある時は、連携してやっていただきたいと思います。

(西間会長)

そうですね。連携病院としてしっかり名前を出していくことが大切です。

また、アレルギーの指針は、5年に1回チェックし、10年後にある程度全面的な見直しをすることとなっていますので、福岡県はここ数年で地域のレベルをとにかく上げていって、10年の見直しの時に更に病院を指定する、しないといったこと考える等、長期的に見ていくことが大切です。

それでは、最後に事務局の方から挨拶をお願いします。

(司会)

西間会長ありがとうございました。また、委員の皆さまにおかれましては、熱心なご討議をいただき誠にありがとうございました。本日拠点病院案としてご承認いただきました福岡病院につきましては、先程申し上げましたとおり、詳細を詰めながら事務手続きを進めてまいります。また、指定後は、報道機関への情報提供やホームページ等で公表していきたいという風に考えております。

それでは、これを持ちまして「平成30年度第2回福岡県アレルギー疾患医療連絡協議会」を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。